

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24360246

研究課題名(和文) 伝統文化継承装置としての花街建築および景観の全国的実態と地域特性

研究課題名(英文) Nation-wide survey of architecture and townscape in "kagai" which inherit traditional Japanese culture

研究代表者

岡崎 篤行 (OKAZAKI, Atsuyuki)

新潟大学・自然科学系・教授

研究者番号：10281247

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,600,000円

研究成果の概要(和文)：京都、新潟、金沢、小浜、八王子、山形、長崎といった全国の主要な花街を対象として、花街の成り立ちと現在までの変化、花街建築の特徴や文化財的価値、歴史的花街建築の残存状況と景観の特徴、花街の景観や住環境保全に係る課題、花街の維持・活用に関する市民活動の実態、祭礼と花街との関係等を分析した。さらに、京都、東京、金沢、新潟を対象として、花街保全のための施策の現状と整備過程を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Kagai is traditional entertainment district where Geisha perform Japanese dance and music. Origin and formation of kagai, architectural feature, remaining traditional architectures, townscape of kagai, preservation and planning issues, civic activities for revitalization, relationship between kagai and traditional festivals, etc. were analyzed in this study. Preservation policies and process of district improvement were also clarified.

研究分野：都市計画

キーワード：都市計画 景観 都市史 建築史 市民活動 まちづくり 観光

1. 研究開始当初の背景

芸妓主体の花街と娼妓主体の遊廓(色町)は近代に分離された。花街は全国各都市に存在し、昭和初期から戦後の高度成長期にかけて隆盛を極めた。全国に600を超える花街があったとされるが、多くは廃れ、大阪や仙台などの大都市でさえ、消滅している。昨今の経済状況を踏まえると、今後、急速に消滅していくと予想され、現存する花街の調査は緊急の課題である。

世界的に見ても、色町としての機能を廃し、純粋な伝統文化の継承装置として、現代なお生き続ける類似の空間は、他に見当たらない。

花街のうち、神楽坂を含む東京六花街、祇園を含む京都五花街については、料亭、茶屋などの花街建築や情緒豊かな界隈が全国的に知られているが、金沢の茶屋街など一部を除けば、地方都市の花街はほとんど知られていない。

既往研究の状況としては、遊廓に関する史的研究は多く、その一部で花街を取上げている場合はあるが、花街を主体にした研究は意外なほどに少ない。歴史地理学分野で一定の蓄積があるほか、都市・建築分野では個々の建築を中心に花街を扱ったものが、わずかにある状態であった。また、京都や金沢で花街を対象とする調査がされているが、歴史的町並みとしての調査であり、花街という視点からの調査ではなかった。このように、複数の花街の建築や景観に関して横断的に比較を行った研究はされていなかった。

我々は、それぞれの都市で花街建築や景観の研究を進めていた。岡崎は京都祇園、東京新橋に次ぐ花街と言われた新潟古町で、花街の建築及び景観特性の基礎的知見を明らかにした。井上は京都において上七軒を中心に花街建築に関する研究を、窪田は東京神楽坂で景観保全に着目した研究を行ってきた。この三人の他、これらの研究に関心を寄せる大場、澤村、今村、寺田らが集まり、平成21年度に新潟で花街の建築とまちづくりをテーマにしたシンポジウムを開催した。この中で、三都市を俯瞰し、花街建築の特性や景観的価値及びその計画論的課題を横断的に扱う研究の必要性を認識し、平成22-23年度挑戦的萌芽研究「伝統文化継承装置としての花街建築および景観の特性と計画論的課題」の採択を受けて研究を遂行した。

この共同研究のなかで、著名な京都、金沢が茶屋を中心とする花街であるのに対し、東京、新潟を含めた他都市では、料亭が中心であり、その建築様式も異なることが明らかになった。また、この状況には歴史的変遷があり、東京、新潟でも以前は茶屋に相当するものが多数あったこともわかってきた。また、戦災を受けなかった京都、金沢、新潟は、特に歴史的な花街建築の残存状況が良いこと、これまであまり知られていなかった東京・八王子でも花街の景観整備が進んでいること、山形、盛岡などでも花街観光による地域活性

化の取り組みが進められていることなどの新たな情報を把握した。

このように、これまでの研究対象地である京都、東京・神楽坂、新潟の研究を、歴史面、意匠面、計画面から、より詳細に行うとともに、観光というあらたな視点も加える必要がある。また、金沢、東京・八王子、山形、盛岡など、新たに対象地を拡大し、個別対象地のデータを蓄積するとともに、全国的な比較分析を進める必要性を強く認識するに至った。

2. 研究の目的

継続研究都市である東京、京都、新潟に加え、花街建築の残存状況の良好な他都市の花街も対象として、(1)花街の形成・変容、(2)花街建築の特性(文化財的価値)、(3)花街建築の残存状況及び景観特性、(4)花街の景観保全・住環境保全に係る計画課題、(5)市民活動による花街の維持・継承、(6)花街のプロモーション・地域活性化の6つの研究課題に取り組む。研究課題ごとに全国の主要花街の概要を把握して全国の実態を整理するとともに、各花街の地域特性を明らかにすることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

以下に、研究課題ごとの調査・分析内容を示す。

(1) 花街の形成・変容

街区形成に係る史料収集及び分析(花街建築の集積、路地の発達などにも留意)
変容過程(用途転換)の分析
花街の形成・変容の全国の実態と地域特性の整理

(2) 花街建築の特性(文化財的価値)

花街建築(料亭、茶屋、置屋ほか)の実測・ヒアリング調査等
花街建築の特性(間取り、内部意匠、各室の使われ方等)整理
花街建築の全国の実態と地域特性の整理

(3) 花街建築の残存状況及び景観特性

歴史的な花街建築の抽出(目視による判定、ヒアリング調査等)
歴史的な花街建築の残存状況の整理
花街建築の外観特性と町並み・路地空間の評価
歴史的な花街建築の残存状況の全国の実態と地域特性の整理
花街建築の外観特性と町並み・路地空間の全国の実態と地域特性の整理

(4) 花街の景観保全・住環境保全に係る計画課題

景観阻害要因(電線、看板、高さ問題等)の抽出
既存不適格の問題(防火地域・準防火地域、二項道路等)整理
花街の景観保全・住環境保全に係る計画課題・先進的取り組みの全国の実態の整理
各花街における既存の景観保全制度、都市

計画制度等の適用可能性の検討と課題整理

- (5)市民活動による花街の維持・継承
花街で活動する市民団体へのヒアリング調査、資料収集 [粋なまちづくり倶楽部(神楽坂)、中町周辺まちなみづくり協議会(八王子)、花街文化研究会(京都)、新潟まち遺産の会(新潟)など]
市民団体や行政と連携した花街でのまちづくり活動の課題及び展開方策の整理
花街の維持・継承に係る市民活動の全国的実態の整理
- (6)花街のプロモーション・地域活性化
行政や商業・観光関連団体へのヒアリング調査・資料収集
花街のプロモーションや花街を核とした地域活性化事業の整理
花街のプロモーション・地域活性化の全国的実態の整理

4. 研究成果

各事例において、花街の形成・変容、花街建築の特性(文化財的価値)、花街建築の残存状況及び景観特性、花街の景観保全・住環境保全に係る計画課題、市民活動による花街の維持・継承、花街のプロモーション・地域活性化の6つの研究課題に取り組んだ。具体的には次の通りである。

(1)京都

上七軒に関して、江戸期における北野社境内の茶屋に関する都市史研究をおこなった。また、上七軒に残る茶屋建築の実測調査をおこなった。上七軒および北新地の花街空間形成に係る史料収集とその分析をおこなった。

現在は花街としての歴史を終えてしまっている五条楽園および下之森について、史料収集とその分析をおこなった。

(2)新潟

古町を対象として、路地空間と妻入主体の家屋構成との関係性に着目しつつ、花街建築14件の実測調査をおこない、花街建築と都市空間の特異性を明らかにした。また、昭和30~40年代頃と現在の花街建築の分布状況を文献およびヒアリング調査等から明らかにした。さらに、花街建築の特徴を明らかにするため、周辺地域の町屋の実測調査をおこなった。

(3)金沢

三茶屋街(ひがし・にし・主計町)を対象に、花街における景観保全及び地域振興の経緯を整理した。また、ひがし茶屋街については、建築物の修理・修景事業の実施状況と建築物の用途及び利用主体の変化との関連分析を行い、町並み観光地化の進行過程における町並み保存の進展プロセスを明らかにした。さらに、昭和30~40年代頃と現在の花街建築の分布状況を文献およびヒアリング調査等から明らかにした。

(4)山形

山形市七日町、酒田市今町における花街建

築の残存状況と外観特性に関する調査をおこなった。また、鶴岡市中心市街地の旧花街地区にある、旧料亭の歴史的建築物としての保全・活用方法について、地元活動者や、他の物件で同様の取り組みを行っている組織の関係者にヒアリングをおこない、検討した。

(5)福井

小浜市三丁町の元茶屋建築の実測調査をおこない、基本的な間取りの構成は京都の花街と共通し、一般的な町家とも共通点が多いこと、外観は2階開口部に特徴がみられることが明らかになった。さらにヒアリング調査をおこない、主に終戦直後の三丁町の花街の構成について明らかにした。

(6)八王子

中町を対象として、まちづくり活動への参加を通して、花街文化を活かした中心市街地の将来像のあり方を検討し、将来計画策定のための基礎情報の整理をおこなった。また、昭和30~40年代頃と現在の花街建築の分布状況を文献およびヒアリング調査等から明らかにするとともに、路地を対象とした景観分析をおこなった。さらに、中町花街の重要な景観要素として黒塀、石畳、柳の3つを抽出し、各要素を整備した歴史的市街地の先行事例調査を行い、そこから中町の景観整備の方向性を導出した。八王子花柳界によって積極的に取り組まれている、料亭等のお座敷外の祭りや他の芸能との共演による芸の披露である「お座敷外活動」と、八王子花柳界の近年の再興との関係についても明らかにした。

(7)長崎

丸山町を対象として、花街建築及び歴史的な景観構成要素の残存状況調査をおこなうとともに、史料収集、ヒアリング調査等をおこない、戦後の変容過程を明らかにした。

(8)博多

中洲および新柳町を対象として、主として地図史料の分析から、戦前・戦後の変容過程を明らかにした。

(9)花街の保全と整備

京都、東京、金沢、新潟を対象として、花街における保全施策の現状及び整備のプロセスを整理した。

(10)祭りと花柳界

八王子まつり、長崎くんち、博多どんたく、新潟まつりを対象に、芸者衆等花柳界の関係車による市内巡行のルートや舞踊の披露の場としての見せ場の分布について、調査分析を行った。

(11)研究発表

研究成果の中間報告を兼ね、平成26年3月に「桑都八王子・中町花街イベント」と銘打ってシンポジウム「黒塀に柳が映える花街のまちづくり」を八王子にて開催した。

研究成果の最終報告会として、平成27年3月に「伝統文化を継承する花街のまちづくり」を京都先斗町にて開催した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 21件)

久保有朋、岡崎篤行、花街建築に関する分布の変遷及びまちづくりのプロセス：八王子市中町を対象として、日本建築学会大会研究報告集、都市計画、査読無、2014、pp.475-476

近藤光、野澤康、歴史的資源を継承する地区における住環境の実態と計画的課題～八王子市中町を対象として、日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1、査読無、2013、pp.997-1000

Atsuyuki Okazaki, Noriko Hokari, Youichi Imamura, “Kagai” Traditional Entertainment Districts : Their Present Condition and Conservation, Journal of International City Planning, 査読有、2012、pp.373-381

[学会発表](計 0件)

[その他]

ホームページ等

<http://niigata-toshikeikaku.jimdo.com/>
花街空間研究会/

6. 研究組織

(1)研究代表者

岡崎 篤行 (OKAZAKI, Atsuyuki)
新潟大学・自然科学系・教授
研究者番号：10281247

(2)研究分担者

大場 修 (OBA, Osamu)
京都府立大学・生命環境学部環境デザイン学科・教授
研究者番号：20137128

澤村 明 (SAWAMURA, Akira)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：40334643

井上 えり子 (INOUE, Eriko)
京都女子大学・家政学部生活造形学科・准教授
研究者番号：70226736

井上 年和 (INOUE, Toshikazu)
建築研究協会・主席研究員
研究者番号：00505688

野澤 康 (NOZAWA, Yasushi)
工学院大学・建築学部まちづくり学科・教

授

研究者番号：00251348

川原 晋 (KAWAHARA, Susumu)
首都大東京・都市環境学部自然・文化ツーリズムコース・准教授
研究者番号：10367047

岡村 祐 (OKAMURA, Yu)
首都大東京・都市環境学部自然・文化ツーリズムコース・助教
研究者番号：60535433

小林 史彦 (KOBAYASHI, Humihiko)
金沢大学・理工研究域環境デザイン学系・講師
研究者番号：70293371

今村 洋一 (IMAMURA, Youichi)
長崎大学・大学院工学研究科・准教授
研究者番号：00568404

(3)連携研究者

窪田 亜矢 (KUBOTA, Aya)
東京大学・都市工学科・教授
研究者番号：30323520